

Sonica Instruments TSUGARU SHAMISEN

Virtuoso Japanese Series

User Manual

Version 2.0 — July 2022

この度は Sonica Instruments Virtuoso Japanese Series TSUGARU SHAMISEN を お買い上げいただき、まことにありがとうございます。 本物の日本の音を追求するこの製品を是非お楽しみください。

The Sonica Instruments Team





バージョン履歴

Release Update 2.0

- ・ Groove Browser 機能を追加
- ・ Touch Noise および Variation Switch の挙動をラッチに変更
- ・ EQ ウィンドウにステータス LED を追加
- 動作環境の変更(KONTAKT 6.6 以降)

Release Update 1.5

・ NKS および NATIVE ACCESS に対応



はじめに

津軽三味線とは

三味線は日本の音楽を表現する上で、箏・尺八と並んで欠かすことの出来ない楽器です。その中でも津軽三味線は青森県津軽地方に伝 わる三味線で、独自の発展を遂げました。日本の三味線は「太棹」「中棹」「細棹」に大別できますが、津軽三味線は「太棹」に分類さ れます。他の三味線と比べて全体的に大きく、深く重みのある音色で、音量も大きく、迫力のある音を奏でます。民謡の伴奏と独奏の スタイルが多く、特に独奏では撥を叩きつけるような弾き方や、即興演奏、速弾きなど独自のスタイルで発達し、その音色と演奏の迫 力が魅力で、現代ではポップスやロック、ダンスミュージックに取り入れられることも多くなりました。

Virtuoso Japanese Series TSUGARU SHAMISEN について

この製品は津軽三味線のリアルな再現を目標に開発されました。津軽三味線の演奏は山中信人氏。卓越した演奏力で狂いのない、素晴らしい音を奏でていただきました。さらに妥協のないレコーディング、KONTAKT プログラミングによって、まるで目の前で演奏されている様な、最も津軽三味線に近いソフトウェア音源として完成しました。ぜひ TSUGARU SHAMISEN をたくさんの音楽の中で お使いください。

そしてなにより私達は本物の邦楽器と演奏者をリスペクトしています。この製品をお使いになっていただくことが、皆様が本物の津軽 三味線の魅力を知るきっかけになれば幸いです。

製品の特長

高精細な 24bit、96kHz のマルチマイク収録

レコーディングは 10 本以上の様々なマイクと色付けのないマイクアンプを使用、高精細な 24bit、96kHz レコーディングされました (製品では 24bit、44.1kHz で収録)。

製品では DirectMic、OverheadMic、RoomMic、StereoMix の使いやすい4種類のマイキングでミキシングが可能です。

豊富なアーティキュレーション、5つのフレーズバンク、掛け声、スライドノイズを収録

20 以上のアーティキュレーション、スライドノイズ、掛け声、フレーズパターンをキースイッチでコントロール、MIDI 鍵盤上で表現 力豊かなリアルタイム演奏が可能です。

津軽三味線特有の奏法を再現可能にする、独自の発音メカニズムとインターフェース

ストリングモード・メカニズム

津軽三味線には3本の弦がありますが、基本的にギターのような和音演奏はあまりせずに、一の糸をメインにした単音フレーズや三 の糸をメインにした単音フレーズを駆使して演奏します。この演奏方法を再現するために、TSUGARU SHAMISEN では3本の弦を 独立した楽器として挙動させ、弦を選択して発音させるストリングモード・メカニズムを開発し、搭載しました。演奏時は、キースイッ チでストリングモードを瞬時に選択可能。これによって、本物と同じように3本の弦を縦横無尽に行き来する演奏表現が可能となり ました。

「はじき」奏法を再現する " はじき "Hajiki-Legato 機能

左手の指で弦をはじく、三味線特有のタッピング奏法の一種「はじき」。MIDI 鍵盤をレガートで演奏すれば、どのアーティキュレーションからも、KeySwitch 操作することなく瞬時に「はじき」音で演奏可能です。





連続したバチさばきを再現するオルタネート奏法機能

キーオンで打ちおろし (ダウンストローク)、キーオフでスクイ (アップストローク)を交互に発音可能なオルタネイトピッキング機 能を搭載しました。この機能はサスティンペダルを踏んでいる間だけアクティブになり、どのアーティキュレーションで演奏していて も、瞬時にこの奏法を差し込むことができます。サスティンペダルを踏んでいる間、連続で打鍵すれば簡単にトレモロ奏法が実現でき ます。



「さわり」と「共鳴音」を発音するレゾナンス機構

津軽三味線の響きを作るのに最も重要な吾妻さわり (あづまさわり)と共鳴音を独立して音源化、津軽三味線の発音と同じように、特 定の音程に反応して共振します。さらに、これらのレゾナンス音は、三つの調弦タイプとキートランスポーズにも追従し、三味線の本 来の響きを確実に再現します。またレゾナンス音はそれぞれ成分音量をコントロール可能です。

3種類の調弦とキートランスポーズ

二上り、本調子、三下りのスタンダードな三味線の調弦を用意しました。調弦を変えると、鍵盤上では音程はクロマチックに 並んだままですが、開放弦の音程が変わり、同時にさわりと共鳴音も追従し、その調弦独特の響きが再現されます。

楽器の状態を緻密にコントロールできる Instrument Editor

弦ごとに調整可能なストリングボリュームとファインチューニング、さわりの音量、共鳴音の音量、ミュートノイズの音量を調整でき るノイズミキサーを用意。楽器全体の響きを緻密に調整できます。

ニつのプレイモードとピッチベンドモード

リアリティを追求する Single、コード楽器として演奏可能な Poly。目的に応じて二つのプレイモードを用意しました。またピッチベンドについても、演奏中の弦だけにかかる Solo、全体にかかる All という二つのピッチベンドモードを用意しました。

Groove Browser

定番フレーズを Groove(MIDI フレーズ)として収録。ブラウザ画面から MIDI データとして、DAW 上にドラッグしてそのまま使用 することができます。

NKS に対応

NKS に対応し、KONTAKT PLAYER / KONTAKT / KOMPLETE KONTROL 上で使用することができます。KOMPLETE KONTROL キーボードなど NKS 対応ハードウェアとの連携時には、音色を素早くプレビューしたり、ハードウェアのノブやコントローラーをフ ル活用することができます。



製品仕様

Native Instruments KONTAKT 6.6 以降 KONTAKT PLAYER 対応 NKS 対応

システム要件

・Mac: Intel Mac (i5 以降に対応する): macOS 10.15、10.15、11、または 12 (最新アップデート)

Apple シリコン搭載の Mac(Rosetta 2、ARM ネイティブのスタンドアロン経由またはサポートするホスト): macOS 11 ま たは 12(最新アップデート)

- ・Win : Windows 10、または 11 (最新 Service Pack)、Intel Core i5 または同等の CPU、2 GB RAM
- ・OpenGL 2.1 以降に対応するグラフィックハードウェア
- ・4GB RAM(6GB 以上推奨)
- ・データ容量: NCW約7GB相当(WAV約17.6GB相当)

・ライブラリーを快適に動作させるためには、より高速な CPU と、余裕のある RAM メモリーを搭載したコンピュータに製品をイン ストールすることをお奨めします。

※ご使用時にインターネットを経由したユーザー登録が必要になります。

必要な MIDI コントローラー

いくつかのコントローラーを用意することで、より TSUGARU SHAMISEN の機能を最大限に生かし、リアルな演奏を再現出来ます (CC:コントロールチェンジ)。

Sustain Pedal CC#64

鍵盤から指が離れた時に、撥で弦を上に弾く奏法が表現されます。これにより、キーオンで打ちおろし (ダウンストローク)、キーオ フでスクイ (アップストローク)を交互に発音可能なオルタネートピッキングが可能になります。この機能はサスティンペダルを踏ん でいる間だけアクティブになり、どのアーティキュレーションで演奏していても、瞬時にこの奏法を差し込むことができます。サスティ ンペダルを踏んでいる間、連続で打鍵すれば簡単にトレモロ奏法が実現できます。

Key Switch F1 と Control Change CC#11

一部のアーティキュレーションにおいて、バリエーションをコントロールします(固定)。

<ご注意 >

TSUGARU SHAMISEN では、MIDI CC#11(Expression) を一部アーティキュレーションのバリエーション・コントロール 専用に使 うため (固定)、Learn MIDI CC# 機能を使って各ノブに MIDI CC# を割りあてる際は、CC#11 を避けてください。

Quick Reference to TSUGARU SHAMISEN (PDF) を利用すると便利です。

津軽三味線には特有の演奏方法、スケール奏法、用語があるため、それらを和名とともに簡単にまとめた同 PDF を見ながら 作業する ことをお薦めします。



製品をお使いいただくにあたって

本製品をお使い頂くには NATIVE ACCESS 2 アプリケーションで「**シリアルコードの登録**」と「**ライブラリデータのダウ** ンロード」を行う必要があります。なおインストール作業の詳細な操作や最新の情報は <u>Sonica Instruments のウェブサ</u> <u>イト</u>でご確認ください。

1.NATIVE ACCESS 2 のインストール

※ NATIVE ACCESS 2 をすでにお使いの方は、この操作は不要です。

Native Instruments 社の WEB サイト(<u>https://www.native-instruments.com/jp/specials/native-access-2/</u>)よりお 使いのパソコン OS に合わせた「NATIVE ACCESS 2 インストーラー」をダウンロードし、以下の手順でインストールを行っ てください。



<u>2.NATIVE ID でログイン</u>

インストールした NATIVE ACCESS 2 を起動してログインします。

Native Instruments のアカウントをお持ちでない場合、画面内の「Sign up」をクリックし、アカウント作成画面を開き、 必要事項を入力してアカウントを作成(無料)してください。



<u>3. シリアルコードの登録</u>

NATIVE ACCESS 2 を起動し、メニューから「**Add Serial**」をクリックして表示されるウィンドウの赤枠内に、製品購 入時に発行された 25 桁のシリアルコード(シリアルコードは、購入時に E メールでお送りしています)を入力し「Enter」 ボタンをクリックします。



画面に「**Success**」と表示されたら登録は完了です。新たに登録された製品は「New」タブに表示されます。製品の「**Install**」 ボタンをクリックすると、ダウンロードとインストールが開始されます。



以上でライブラリのインストールは完了です。

ダウンロードの完了後に KONTAKT / KONTAKT PLAYER を起動すると、画面左側の Libraries タブに自動的に製品が追加されます。同様に、KOMPLETE KONTROL でも使用することができます。





製品の基本概念

TSUGARU SHAMISEN は KONTAKT および KONTAKT PLAYER、KOMPLETE KONTROL ソフトウェアで使用することがで きます。

KONTAKT および KONTAKT PLAYER で使用する場合

アクティベーションが完了すると、KONTAKT の LibraryBrowser に TSUGARU SHAMISEN のライブラリパネルが追加され ます。音色を読み込んでお使いください。



KOMPLETE KONTROL で使用する場合

本製品は NKS に対応しているため、**KOMPLETE KONTROL** や **KOMPLETE KONTROL キーボード**と連携し、音色をプレビュー したり、設定をプリセットとして保存する事も可能です。**KOMPLETE KONTROL キーボード**のノブコントローラーやブラウザ 機能と共に、快適にお使いいただけます。

詳しくは <u>P.20「KONTROL シリーズのコントローラーパラメータ」</u>をご覧ください。





3つのモニター表示



ウィンドウ上部にあるこの 3 つの表示は mix ページ・play ページ・groove ページ・memory ページ全てで常に表示され、 key switch で選択されている内容が常にモニターできるようになっています。

string monitor

津軽三味線には3本の弦がありますが、基本的にギターのような和音演奏はあまりせずに、一の糸(一番太い弦)をメインにし た単音フレーズや三の糸(一番細い弦)をメインにした単音フレーズを駆使して演奏します。この演奏方法を再現するために、 TSUGARUSHAMISEN では3本の弦を独立した楽器として挙動させ、弦を選択して発音させるストリングモード・メカニズムを開発 し、搭載しました。

演奏時は、キースイッチでストリングモードを瞬時に選択可能です。これによって、本物と同じように3本の弦を縦横無尽に行き来 する演奏表現が可能となりました。

下図は string monitor の様子です。今どの弦が選択され演奏しているのかをリアルタイムに表示されます。



開放弦の音程を表示。キートランスポーズに 追従して変化します。

\$		s 🗸	string monitor
\sim	CS	3 0	
\$	G2	2 0	
∞	C2	1.0	

選択された弦の番号が赤く囲まれます。



発音している弦が点灯します。 開放弦は赤、 ネック部分の押弦は緑で点灯します。

string selector

Key Switch	String Mode
C#2	1st String Mode
D#2	2nd String Mode
F#2	3rd String Mode

open	string	

Кеу	Open String Sound
D2	1st open string sound
E2	2nd open string sound
F2	3rd open string sound



articulation

key switch で選択されたアーティキュレーション (奏法) 名が表示されます。 key switch は KONTAKT のキーボードで確認できます。 いくつかのアーティキュレーションにはバリエーションがあり、クリックして選ぶことができる他、キースイッチ F1 および CC#11 で切り替えることができます。

<u>収録内容と Key Switch</u>

KeySwitch	ArticulationName	奏法名	Contol 1	Control 2
C0	Mute(front)3rd string only	前バチ 親指ミュート	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	
C#0	Up(front)3rd string only	前バチ スクイ	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	
D0	Mute 3rd string only	前バチ トメ	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	
D#0	Up Picking	スクイ(アップストローク)	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	
EO	Down Picking	打ちおろし(ダウンストローク)	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	
FO	Staccato	۲×	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	
F#O	Hajiki (Pulling off / Hammering on)	ハジキ&打ち指		
GO	Vibrato 1st String Only	ユスリ	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	
G#0	Slide Up (1st Only Whole / minor3)	スリ上げ	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	F1 or CC#11= W / m3
AO	Slide Up 2x times (1st Only Whole / minor3)	スリ上げ x 2 回	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	F1 or CC#11= W / m3
A#0	Slide Down (1st Only Whole / minor3)	スリ下げ	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	F1 or CC#11= W / m3
ВО	Slide Up & Down (Half Tone / Major3)	スリ上下	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	F1 or CC#11= W / m3
C1	Slide Up & Down(series)	スリ上下連続		
C#1	Slide Up - Down - Up - Down	スリ上下上下	CC#1 Mod.Wheel = Plucking Control	
D1	Portament Up	スリ		
D#1	Touch Noise	バチのタッチノイズ	全アーティキュレーションに有効	key on ごとに ON/OFF 可能
El	Mute	ミュート		
Fl	Variation Switch	バリエーションスイッチ	G#0, A0, A#0, B0 に有効	F1 or CC#11= W / m3
F#1	Slide Noise 1	スライドノイズ 1		
G1	Slide Noise 2	スライドノイズ 2		
G#1	Slide Noise 3	スライドノイズ 3		
A1	Voice 1	掛け声 1		
A#1	Voice 2	掛け声 2		
B1	Voice 3	掛け声 3		

※ Touch Noise (D#1) および Variation Switch (F1) は、Key ON の間だけ有効になります。



phrasebank

現在選択されているフレーズバンク(奏法)が表示されます。

KeySwitch	PhraseBankName	フレーズバンク名	フレーズ数
C7	Oneshot Phrase	ワンショット・フレーズ集	9
C#7	8bars Phrase	8小節フレーズ	9
D7	Long1 Phrase	即興演奏からのショートピース 1	15
D#7	Long2 Phrase	即興演奏からのショートピース 2	15
E7	Long3 Phrase	即興演奏からのショートピース 3	8



MIDI キーボードのレイアウト

CO~D1: アーティキュレーション Key Switch Zone
D#1: タッチノイズ Switch
E1: ミュート
F1: バリエーションコントロール Switch
F#1~G#1: スライドノイズ zone
A1~B1: 掛け声 zone
C#2~F#2: ストリングモード key switch(水色)& 開放弦(黄色)zone
G2~G6: 演奏用 zone(黄色は開放弦、ピンクは一の糸、緑は二の糸、紫は三の糸)
C7~E7: フレーズバンク key switch zone
F7~G9: フレーズ zone





3rd String mode	一の糸 開放弦 	二の糸 三の糸 開放弦 開放弦	
+2 =	ーの# zone	条 二の糸 zone	三の糸 zone





mix

このページでは基本的な音作りを行います。



Audio Mixer

Direct、OH(OverHead)、Room3 種類のステレオマイクポジションとマルチマイク音源をあらかじめバランスよくミックスされ た StereoMix をミキシングできます。マルチマイクのチャンネルが ON の時は "Stereo" は Off になり、逆に "Stereo" が On の時は マルチマイク・チャンネルは Off になります。

vol:各チャンネルの音量をコントロールします。 width:ステレオマイキングの広がりを調整します。100%でオリジナルの広がりに、0%でモノラルになります。 pan:各チャンネルの panpot を調整します。 rev:各チャンネルのコンボリューション・リバーブへのセンド量を調整します。 out:各チャンネルのオーディオ出力先を選択します。お使いの DAW ヘマルチ・チャンネルの状態で取り込む時に便利です。

-12.0 dB Default	-12.0 dB Default Default sr1	-12.0 d Defaul E	アウトプットを作成した後(※)、KONTAKT のインターフェース右上の「!」ボタンをクリックすると、 TSUGARU SHAMISEN の out メニューに作成したアウトプットが反映されます。
	st.2 st.3		※アウトプットの作り方は、KONTAKT のマニュアルをご覧ください。
	st.4 st.5 st.6		
	st.7 st.8		
1	st.9 st.10		

○各マイクのサウンドを、マルチアウトする





<u>EQ</u>

各チャンネルに搭載された 4 バンド EQ を調整します。右のボタンで EQ の ON/OFF を行います。左ボタン [E] をクリックする と Equalizer ウィンドウがポップアップされます。ポップアップ内のボタンでも EQ の ON/OFF を切り替えることができます。



<u>Reverb</u>

能楽堂の IR(インパルスレスポンス)2種を含む全30種類のコンボリューションリバーブを選択できます。



MIDI CC# Learning 機能

すべてのコントロールノブは MIDI CC(Control Change)で個別にコントロールできます。

Learn MIDI CC# の設定方法



コントロールノブを右クリックし "Learn MIDI CC# Automation" を表示する
 コントロールに使いたい MIDI コントローラーの操作子を動かす
 設定完了

MIDI CC# Automation のリムーブ

設定を削除するには、該当のコントロールノブを右クリックし "Remove MIDI Automation CC#xx"を選択してください。





play



このページでは三味線の調弦 (チューニング)と音色のニュアンスを設定します。

Instrument Editor

```
~ sawari(さわり)について ~
三味線の特徴的な響きは"さわり"にあります。津軽三味線の場合、一の糸の上駒付近にある「吾妻さわり」がこの響き
を作っています。共振により一の糸以外にも"さわり"が付きますが、チューニングの「二上り」が一番"さわり"が付
きや すく明るく派手な音色になり、「三下り」が一番"さわり"が付きにくく暗めの音色、「本調子」がその中間となります。
```

<u>noise</u>



sawari : さわりの音量を調整します。 resonance : 共鳴音の音量を調整します。 release noise : 弦から指が離れる際のノイズ音量を調整します。

※さわりをわかりやすく確認するには、ストリングモードを三の糸に設定し、MIDI 鍵盤の F4 を押しながら上記のパラメーターを調 整してみてください。

<u>string vol と string tune</u>



string vol : 各弦の音量を個別に調整できます。 **string tune** : 各弦のファインチューンを 1 セント単位で +100~-100 の間で 調整できます。







Envelope

演奏中の弦に対してのリリースタイムを調整します。

Plucking Control

弦が撥で弾かれて音を出すまでの挙動をコントロールします。

preroll: 撥が弦に触れた瞬間から、弦が撥に弾かれるまでの最大時間を調整します。

RANDOM PREROLL: ON の時、上記 preroll を Key On ごとにランダマイ ズさせます。

Pitch Bend Mode

演奏中の弦だけにピッチベンドがかかる「Solo」と、全体にかかる「All」の切り替えをします。

Phrase Control

5 つのフレーズバンクから選択されたフレーズのスピードと ファインチューン を調整します。 また、キースイッチG#0 ~ D1のアーティキュレーションも連動しており、スピー ドを調整できます。

Tuning

「二上り」「本調子」「三下り」の調弦を選択でき、下に開放弦が表示されます。それに伴い、さわりと共鳴音も追従します。

Transpose

キーを変更することができ、追従した開放弦が上に表示されます。それに伴い、さわりと共鳴音も追従します。

Play Mode

リアリティを追求する「Single」と、コード楽器として演奏可能な「Poly」の切り替えをします。

Key off Alternate Picking

サスティンペダルを踏んでいる間のオルタネイトピッキングの ON/OFF を選択します。

Velocity Control

ベロシティに対するサウンド変化をコントロールします。



curve type : Velocity カーブを「Linear」「S-Curve」「Compound」「Fixed」
 「User」から選択します。
 curve : 選択したカーブに変化をつけます。
 min : 発音する Velocity の最小値を設定します。
 max : 発音する Velocity の最大値を設定します。





groove

CS 3 G2 2 C2 1 string monito articulation : Vibrato 1st string only phrase bank : Oneshot Velocity Transpose Tuning Swing Grid Tempo Feel Drag & Drop MIDI groove 1/8 120.00 🖨 + Jyongara01_135 Ni-agari 🐨 5 Jyongara02_135.mic Pharas Jyongara03_135.mid JyongaraD4_135.mid JyongaraD5_135.mid SUGARU SHAMISEN Sonica U.SO JAP groove memory play

このページでは付属の MIDI Groove を検索・試聴したり、DAW ソフト上にエクスポートすることができます。



Velocity: MIDI Groove の再生ベロシティを調整します。 **Transpose**:半音単位でキーを変更します。play ページの Transpose と連動します。 **Tuning**:調弦を選択します。play ページの Tuning と連動します。



Swing : MIDI Groove にスゥイング感を与えます。
Grid : Swing のクォンタイズ値を8分音符もしくは16分音符で切り替えます。
Tempo : 再生テンポを指定します。Sync が ON のときには変更できません。
Sync : MIDI Groove の Tempo をホスト DAW ソフトに同期します。
Feel : フレーズの再生テンポをx1.0 (オリジナル)、x2.0 (2倍のテンポ)、x0.5 (半分の)

テンポ)で切り替えます。 **Process** : Swing を Grid 適用前に掛ける (pre) か、適用後に掛ける (post) かを切り替

えることができます。この調整により、同じフレーズ / 設定値でも異なる演奏 フィールを表現することができます。





<u>MIDI Groove を使う</u>

画面内のブラウザ [1] で使用したい MIDI Groove をダブルクリックすると Player に読み込まれます。 「ボタン [2] をクリック するとプレビュー再生がスタートします。MIDI Groove の再生中にパターンをダブルクリックすれば、再生を止めることなくパター ンを切り替えることができます。また、Player 部の **ペ** キー [3] で前後のパターンに切り替えることもできます。



MIDI Groove のファイル名末尾に書かれた数字が、そのフレーズ作成時のテンポを表しています。

MIDI Groove をお使いの DAW ソフトウェアに取り込む

MIDI Groove は、MIDI データとして DAW ソフトウェアに取り込むことができます。 <table-cell-rows> キー [4] を DAW ソフト上にドラッグ & ドロップしてお使いください。





memory

このページでは、全アーティキュレーションと全フレーズバンクについて、サンプルの読み込みを個別に設定することができます。リ ストの Load ボタンをオフ(消灯)させることで、そのアーティキュレーションが無効になりメモリーサイズが軽減されます。 Load ボタンのないキースイッチおよびアーティキュレーションは、オンまたはオフ操作できません。





KONTROL シリーズのコントローラーパラメーター

KOMPLETE KONTROLやKONTROLシリーズ (MIDIキーボード) では、より直感的にコントローラーパラメーターを調整可能です (各 パラメーターについては、前述の項目をご参照ください)。

KOMPLETE KONTROL ではコントロールボタンをクリックすると、パラメーターが表示されます。



Inst Editor

Instrument Editor のパラメーターをコントロールします。



<u>String</u>

String のパラメーターをコントロールします。







Mixer Mic/Vol

AudioMixer のパラメーターをコントロールします。使用するマイクチャンネルの選択と、チャンネルの音 量を調整します。



Mixer Width/Pan

AudioMixer のパラメーターをコントロールします。各チャンネルの Width と Pan を調整します。



Reverb

各チャンネルからリバーブへのセンド量と、Reverb のパラメーターコントロールします。



Direct EQ

Direct チャンネルの EQ パラメーターをコントロールします。





<u>OH EQ</u>

OH チャンネルの EQ パラメーターをコントロールします。



Room EQ

Room チャンネルの EQ パラメーターをコントロールします。



Stereo EQ

Stereo チャンネルの EQ パラメーターをコントロールします。



Groove

Groove Browser のパラメーターをコントロールします。









Credits

Executive Producer: Tomohiro Harada KONTAKT Programming: Rataro. M (Think Master Inc.) Marketing, Translation: Craig Leonard Audio Editing: Yoshitaka Koyama Sample Mapping: Rataro.M (Think Master Inc.) , Yuki Kuromitsu Recording Engineer: Keigo Sonoda (Pastoral Sound) Photography: Takashi Matsuda, Keita Ikeda Music Video: Yasuhiro Nakashima User's Manual: Yoshifumi Yamaguchi (LRCOT) Project Cordination: Daichi Yoshida Production

Copyright © 2022 Sonica Inc. All rights reserved. Sonica Instruments https://sonica.jp/instruments/



この書類に記載の情報の著作権は株式会社ソニカ (Sonicalnc.) に帰属します。 複製、公衆送信、改変、切除、ウェブサイトへの転載等の行為は著作権法により禁止されています。 また、この書類の情報は、予告なく変更または削除する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

All copyrights and various intellectual property rights associated with the information contained in this document are owned and controlled by Sonica Inc. Copyrights and various intellectual property rights laws expressly prohibit the reproduction, public distribution, alteration, revision, or publication of this document on any other Web site or in other medium.

The information contained in this document is subject to change or deletion without prior notice.

